

## 大豆と小麦と塩水が お醤油になるまで

No. 7

本年最初の報告です。今年も申し訳ありませんが…よろしくお願いします。

お醤油を仕込んで7ヶ月の報告です。

年末から、やっぱり来たか〜の寒さですね。暖冬とは言っても、やはり寒いです。でも、そのおかげで、白い蠟を撒いたような光景を目の当たりにすることもなく、良い匂いになってきたな〜と来年の今頃に思いを馳せております。

出来たお醤油を何に使います？

まずお刺身に。炊き込みご飯もやらずちや。煮物もあれこれ作りたい！香りが強いので妙め物にも合う！（もろみを混ぜた後の木べらで既に調理済み。香りがいい！）きのこなんて相乗効果で味も香りも良さそうだと…と、おととと。暴走する妄想にブレーキブレーキ。

こうして毎月レポートをしていると、昨日と今日は大差がなくても、今日と1カ月後は確かに違って、やっぱり成長しているんだなあ。生きているんだなあ。

何だか手を合わせたいような心境になったりします。（新年ですし。）

さてさて。お正月というのは、各家庭で恒例の行事が盛大に、ささやかに、それぞれにありますよね。楽しめましたか？

子どもの頃、田舎の中庭には「すくも(モミガラ)小屋」というのがあって中にはふかふかのすくもが山と積まれていたのです。

悪戯盛りの子どもが4人(いとこと私たち姉妹)集まって、魅力的な遊び場を逃すはずがありません。天井にあがり、上からジャンプ！！ちくちく刺さったりもするのですが、暖かいし、ケガをやる心配はないのでもう止まらない！！最高潮の盛り上がったそのとき…おじいちゃんの一喝でふと我に返ると、中庭はすくもだらけ。自分達のしでかしてしまった事態に呆然です。おじいちゃんは、お互い視線を交わすだけで固まっている孫達を見下ろして、「きれいに掃除をして、横のお籠さん(かまどです。「おくどさん」という音がとても暖かくて好きでした。)まで持って来なさい」といつに無く厳しい声です。

大騒ぎですくもを小屋に放り上げて片付けをすますと、竹で編んだ大きなざるにすくもを山積みにして四人でお籠さんまで運びます。この時のお籠さんは、日常の煮炊きをするお籠さんではなく、何もかもが大ぶりなお籠さんです。

中庭に面していて、木戸を開けると大きな籠がでん！と一つ鎮座しています。年に数度、行事のある時にしか使われない特別な籠なのです。その大きなお籠さんには、既に大きな木製の蒸し器が何投も重ねられていて、姉さん被りのおばあちゃんが薪をくべながら笑っています。

「ご苦労さんじゃなあ。お餅を搗くんよ」

いつもの優しい口調に、私たちは急に安心してべったりと座り込んで暖かそうなおばあちゃんの背中と籠の火に見入っていました。

「そろそろ、良かろう」と言うおばあちゃんの声に、女衆たちは子ども達に「どいて！」「熱いよ！」と張った声をあげ、蒸しがあがったもち米を臼へと運んでいき、臼へあけると、男衆が掛け声も勇ましく餅つきを始めるのです。

そんな面白い光景にも、いとこ達はなぜか目もくれず、竈の火の上に横に積まれたすくもを弱火にくべて「一回では搗ききれんから。冷めたもち米じゃ餅にならんじやろう」と、知的な発言。なるほど。ちゃんと子どもにも役目があるんですね。

あまり役に立たない都会っ子の姉妹が納得したところに、おじいちゃんがアルミ箔に包んだサツマイモをにやり、と笑って次々へと竈のすくもの中に差し込んで行きます。子ども達もにやり。

後で、おばちゃんが「<sup>きんとん</sup>金団作らないけん、思てここにおイモさん置いたはずじゃがな～」と首を傾げて溢すのを聞いて、おじいちゃんと子ども達はチラッと見交わして、にやり。

勿論、火の番をしている間に美味しい焼き芋が出来上がり、お役御免を言い渡されるとすぐに、ばれないようにタオルで包んでから子ども同士でなぜかくすくす笑い、小突きあいながら土手へと登り美味しくいただきました。

畑を見回りに行っていたのか、おじいちゃんは何処からとも無くやってきて、私の手にした焼き芋を少しとって口に入れると「上手く出来たが！」と4人の頭をなでて、にやり。

おじいちゃんと交わした"ひみつ"のスパイスは、今でも私をほっこりと暖かい気持ちにさせてくれます。可愛がってくれていたという証拠ですからね。

現在、父と息子達が私の目の端で、にやり。それを目端に捕らえた私と母もにやり。

「あんた達と似たようなことやってるわね」とため息をつく母の言葉に、初めてバレていたのね～と気付いた次第。考えてみれば当然ですね、ボロが出ない訳が無いですね。

願わくば、その秘密が彼らの後の人生の宝物になる“ひみつ”でありますように。

「お正月」と聞くと、お着物着て、ということよりも焼き芋となぜかあの時のくすくす笑いを思い出すのです。

新しい年の、お醤油くんは元気にされていますか？



(チャイム 2005 年 1・2 月号掲載)